

【めむろ未来ミーティング日程1】

令和8年1月13日(火)

10:00～11:55

- 参加者 31人
- 芽室町 町長、教育長、
魅力創造課参事、農林課長、
環境土木課参事、政策推進課長
- 記録 広報広聴係

■対応・検討が必要な事項

- ①テニスコートは利用できないのか(都市経営課)
- ②めむろ一どのトイレ修繕に町も関与して(商工労政課)

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
 - 資料1 芽室公園 Park-PFI
 - 資料2 都市公園ストック再編計画について
 - 資料3 新嵐山スカイパークについて
- 4 意見交換

(1)資料1・2についての意見交換

【参加者】

①上美生にあるテニスコートは、以前は中学生たちが利用していたが、今は利用できないのか。

【環境土木課参事】

上美生のテニスコートは「公園」という位置づけではないため、今回の計画には含まれない。利用についてこの場ではわからないため、ご意見は預らせていただき、改めて回答したい。

【参加者】

屋内遊戯施設は利用料金がかかるのか。また、この施設内で芽室のものを販売できる場所はあるのか。道の駅ではないと理解しているが、せっかく国道沿

いのいい場所に建てるのであれば、芽室のものを販売してもいいと思う。

【町長】

物販に関しては、今、事業者が決まった段階なのでこれからの検討となる。最初はそのようなスペースは無くても、新たに施設を建てて販売していくという可能性も無くはないと考えている。

屋内遊戯施設は、利用料金はいただくことになるが、町民割引はやっていきたい。規模としても大きなものになるので、町外からも集客できるような形に持っていきたい。

【参加者】

公園の計画を今年度中に策定するということが、今初めて知った。例えば「高齢者型」などと一括りにするのではなく、上美生の地域特性を踏まえてこうしてほしいということを話す機会や意見を言う機会もなく、決まりかけたこの段階で意見を言うというのは時間がもったいない気がする。このようなことを進めているということを事前に聞いたら良いと思う。

芽室公園がこれから変わっていく中で、これがいいこれがダメなど、そのような意見はないが、関わっていく事業者と町民が繋がって意見交換できるような場や、町民の意見を聞く場があると良い。

【環境土木課参事】

公園に関して、今回このような5つのパターンに分けさせていただいたが、具体的にそれぞれをどうしていくかということはこれから設計していくことになり、その部分は皆さんのご意見を伺いながら進めていきたいと考えている。また、例えば「高齢者型」だから高齢者しか使えないということだけでなく、メインとしてそのような方々が地域にいるので利用しやすいような場所にしていこうという考え。公園自体は色々な方が使っていただくようなものなので、区分分けはしても、多くの方々に使っていただけるような公園にしていきたい。

【魅力創造課参事】

Park-PFI 事業に関しては、資料でもご説明させていただいたとおり、民間事業者から投資をしてもらう事業であり、おそらく屋内遊具施設だけでも1億円ぐらい負担をしてもらうような制度である。町として色々なことをお願いしながら、民間事業者としてその投資経費に見合う施設になるかどうかという点は非常に重要な視点ですので、例えばこのような遊び方をしたい等のご意見は、子育て世帯の方を中心にお話をお伺いして、町として事業者と相談をするような形になろうかと考えている。今月下旬にも町民の方向けの説明会をやるので、皆さんのご意見を聞きながら進めていきたい。

【町長】

Park-PFI 制度は非常に難しい制度である。十分に理解されにくい面があると思う。例えば芽室公園のような場所を、憩いの場、町民の交流の場、あるいは経済的効果も期待できる公園として整備していく場合、建物の整備が必ず伴う。しかし、それらをすべて町の財源で建設していくほどの財力や状況ではなくなってきている。そのため、民間資本を活用し、民間に施設を整備してもらい、町がそれを借り受けるといった方法により、財政負担を抑えていく時代になってきている。何でも公の力だけで進めるやり方は、成立しにくくなってきている。この考え方が、PFI (Private Finance Initiative)、すなわち民間資本を導入するという制度。選定された事業者は、一定の裁量と考え方をもって設計や整備を進めることになる。一方で町としては「可能な限りこのような状況にしてほしい」といった要望は伝えられるものの、民間資金で実施する以上、行政の意向どおりにすべてを求めることは難しい部分がある。しかし、実際に利用するのは町民や来場者であるため、町として利用者の意見をどれだけ集約し、民間事業者に伝えられるかが重要である。そのため、説明会の実施等により意見を把握していく必要がある。この事業はパブリックコメントは実施しないが、住民や利用者の意見をどのように集約するかについては、町としてしっかり検討していかなければ

ならないと思う。また、官民が共同で進める事業であり「民間に任せたので町は関与しない」という姿勢ではない。町として言うべき意見は言う必要がある。そもそも公園は町の所有であるため、その点も踏まえ、町として適切に意見を述べていきたい。住民意見の集約については、今後も継続して丁寧に進めていきたい。

公園については、意見を言う機会が十分になかったという指摘は理解する。一方で、町内には約52の公園があり、すべての地域に対して個別に意見を求めていくと整理がつかなくなる面もあるので、この点は理解いただきたいと思う。また、先ほどお話ししたとおり、今回の区分により「特定の人しか使えない」といった扱いになるわけではない。必要に応じて区分は行うが、利用上必要な投資や整備がある場合には、町としても検討すべきだと考えている。今後、各公園について地域の意見をすべて聞くという対応は、正直なところ難しいと考えている。ただし、今回はあくまで分類を行ったもので、公園として何もしないということではない。維持管理については適切に実施していく計画であるため、その点もご理解いただきたい。

【参加者】

資料1のPark-PFIで整備する建物は、町がリースするということだが、売上の何%等を支払う形になるのか。

【魅力創造課参事】

モンベルからは、面積に見合った負担金を町が受け取ることになる。町としては、モンベルやビクターセンターを拠点とし、町民がカフェ等を利用したり、子どもたちが放課後に立ち寄りたりできる交流の場として活用してもらおう。飲食については、屋内遊具施設の付属施設として、指定管理者に運営してもらおう。飲食はテナント募集や運営にノウハウが必要であり、町が飲食店を募集して誘致し、さらに継続して運営してもらおうことは難しい。そのため、民間事業者指定管理の枠組みの中で担ってもらおう。町が指定管理料を支払って運営してもらおうのでは

なく、事業者の自主事業として運営してもらい、町は負担しない形でお願いしている。事業者からもその方向で提案を受けている。ビジターセンターについては、公園利用者が広く利用できるカフェや軽食の提供を行うよう、依頼しているところである。

【参加者】

公園には駐車場があってトイレがあればいいと思う。また、②去年、めむろ一どのトイレがしばらくの間壊れていた。運営団体との関わりもあるのだと思うが、町も関与して早めの対応をしてほしいと感じた。

【環境土木課参事】

トイレはそれぞれの公園にトイレは整備しており、しっかり使えるような形に清掃等も行っている。駐車場はそれぞれの場所の問題もあるが、トイレに関しては今後もそのような整備をしていきたい。

【町長】

めむろ一どのトイレに関して、公共の部分であれば町の責任としてやらなければならない。また、Park-PFIでは、設備更新の中に、トイレ等の更新が含まれる場合は、それも事業者に対応してもらうことになる。資料2ページの歳出欄にあるとおり、更新費用や屋根等の修繕費も含めた金額を、例えば10年などの期間で按分する形で支払いを行うことになる。したがって、何か不具合等があった場合には、事業者が対応することになると考えている。

【参加者】

モンベルショップが来るということで、モンベルは各地に店舗があるが、せっかく芽室町に出店いただけるのであれば、例えば小清水町のように、モンベルと町がコラボし、その場所でしか買えない商品を用意するなどの取り組みもしてほしい。そのような限定商品等があれば、それを目的に来訪する人もいると思うので、そうした企画もぜひ検討してほしい。

【町長】

モンベルは札幌近辺には店舗が多いが、地方で展開しているのは、先ほど話題に出た小清水町、南富良野町、東川町などである。今後は留萌にも出店の動きがあると聞いている。そうした状況を踏まえると、道東（釧路・根室・十勝）方面では、芽室町での出店が実現すれば貴重な拠点になると考えている。同一地域に2店舗、3店舗と増やせるものではないため、芽室町の出店には価値があると思う。規模については、モンベルの会長とも話をしているが、概ね南富良野町クラスになる見込みである。小清水町や東川町よりは、やや大きい形になると考えている。

また、ご当地アイテムについても作るようになると思う。南富良野町でも地域限定のTシャツ等を販売しているが、芽室町でも同様の展開は可能であり、実現してもらえる見込みである。限定品を各地で集めて購入する来訪者もいるため、そうした点も集客の一つとして活用していきたいと考えている。

(2)資料3についての意見交換

【参加者】

資料のリフトの図（写真）について質問だが、例えばBコースやツアーコースから戻ってきた利用者は、リフト乗り場まで毎回ここまで移動しなければならないのか。

また、リフトを使わずに、途中から斜面を斜めに移動して戻れるようにはならないか。現状、第一リフトのみだと、Cコースから戻る際にリフト乗り場まで移動するのが大変で、2~3本滑ると疲れてしまうという利用者もいる。Bコースやツアーコースは子どもたちにも人気だと思うため、動線や移動についてどのように考えているのか確認したい。

【魅力創造課参事】

まず町として考えていたのは、AコースとCコースには人工降雪機があるため、まずA・Cコースの利便性を高めることである。特にCコースは距離が遠く、滑り終わった後に約200m歩く必要があり、体力を要するなど、スキー・ボード利用者にとって負担

が大きい状況であるため、A・Cコースの利便性を高めていきたい。上級者が多いBコースについては、リフトがこの位置であれば、その動線で滑って降りてくる利用者もいると考えている。この点はスキー団体とも話している。

ツアーコースについては、出口側に傾斜を付け、できるだけ第一リフト付近まで滑って来られるような造りとしている。ただし、最後は多少歩く、または進んでもらう必要があり、利用者には一定の負担をかける可能性がある。

また、リフトは設置・維持に費用がかかるため、どこに設置するのが最も効率的かという観点で検討している。資料の表には記載がないが、旧管理棟付近に新しいロッジを整備する想定であり、その周辺を拠点として利用してもらう考えである。

一方で、ゲレンデ全体が広く、どのコースからでも負担なくリフトへ乗り継げる形が理想ではあるが、リフトの増設や架け替えには多額の費用がかかる。1本あたり数億円規模となるため、町としての負担が最も少ない方法を選んでいる。

第一リフトは使用しなくなる想定であるが、支柱等は撤去せず残す方向で考えている。撤去だけでも相当な費用がかかるため、そこに費用をかけず、必要な整備に予算を充てたい考えである。

【参加者】

新嵐山荘の反対側にソーラーパネルがある。あれは町のものか。

【町長】

すべて民間の方のものである。

【参加者】

色々契約して新嵐山に設備を整備すると思うが、損失のないように進めてほしい。

【魅力創造課参事】

北海道知事と協議し、新嵐山を都市公園へ編入してもらう方向で進めてきたところであり、北海道知事の同意はすでに得ている。そのため、今後は公園

施設として整備・管理・運営を行う。指摘のあったように、無駄な開発は行わず、公園施設として適切に維持管理していく方針である。北海道知事からもその点を前提に同意を得ているため、町としてもしっかり取り組んでいきたいと考えている。

【参加者】

リフト頂上の展望台付近について、あの場所に、例えば喫茶店やトイレ、景観の良いホテル等の施設を整備する考えはないか。夏場も含めて利用する人がいる可能性もあると思う。

【町長】

展望台の再整備については「景観的にも非常に良い資源である」という意見を多くいただいており、整備の必要性は認識している。ただし、頂上には水道が行っていないため、上まで引き上げるとなると相当な費用がかかり、現実的には難しい面がある。夏季利用については、これまで林道を通して駐車場側へ上がる使い方だが、この道路はあくまで管理用道路であり、観光用として整備されたものではない。下から観光道路として整備し直すとなると、数億円かかると聞いている。そのため夏の利用としては、利用料をいただく可能性はあるが、リフトで上まで上がって景観を楽しんでもらう形が現実的であると考えている。その際のトイレは簡易トイレの設置、飲食や喫茶についてはキッチンカーを上げて対応するなどが、現時点では実現の可能性が高い方法だと考えている。大きな建物や宿泊施設を新たに建てるころまでは、費用面から見てかなり厳しいと見込んでいる。また、展望台自体も老朽化しているため、つくり直しについては検討しているが、現時点ではまだ具体化していない。ただ、仰るとおり魅力のある場所であるため、適切に整備し、活用していきたい考えである。

あわせて、嵐山全体のリフトについては、正直なところ2本架け替えは費用面で非常に難しい。加えて、この規模の山でスキー場として採算を取っていくことは容易ではないという実態がある。維持管理経費も踏まえると、リフトは1本に集約せざるを得

ないと考えており、利用者には不便をかける部分があるかもしれないが、夏も含めた通年利用や展望台利用につなげることで、赤字の圧縮を図りたい考えである。

今年自動改札機を導入したが、これも経費削減の一つである。改札機は移設が可能であり、リフトを1本化した場合には、移設して有効活用し収支改善につなげたいと考えている。

【参加者】

ナイター営業はどう考えているか。

【魅力創造課参事】

ナイターは、設備自体がかなり老朽化している。現状のままでは維持が難しく、仮に更新する場合は他のスキー場と同様にLED化が必要になる。その場合、概算で約1億円かかると聞いている。そのため、当面はナイター営業を行わない方針である。まず優先すべきはリフトの架け替えであり、こちらも老朽化が進んでいる。どちらを優先するかを考えた結果、今回の整備計画では、まず計画内容を確実に実施することを優先する。その上で、スキー場の利用状況を見ながら、ナイターが本当に必要であれば次の投資、次の整備として検討していく位置付けである。したがって「絶対に実施しない」という計画ではないが、当面は休止したいという計画としている。

【参加者】

新嵐山の牧場を光勇に一本化するということで、斜面を観光利用するとのことだが、今後の利用想定はあるのか。草刈りもどうしていくのか。

【魅力創造課参事】

この斜面については、来年度から指定管理の下で、適切に草刈り等の維持管理を行ってもらう予定である。また、指定管理者となる事業者から提案があれば、当該斜面を活用した事業は実施していきたい考えである。例えば、マウンテンバイクで走行できるようにすることや、大学の陸上部がトレーニングで利用することなど、活用の可能性はあると認識し

ている。一方で、活用の有無にかかわらず、草が伸びたままの状態になると人工雪が定着しにくくなるため、管理はきちんと行う方針である。

(3)その他の意見交換

【参加者】

町の小中学校配置計画に関して。小中学校配置計画の代表として、3年前から教育委員会と、今後の学校のあり方について協議を重ねてきた。その中で、どのような形で学校を残していけるのかについても検討してきた。PTAとしても地域としても、考え方の幅を広げながら、さまざまな意見を伺いつつ議論してきたが、ぜひ小学校・中学校を残していきたいという強い思いがあることを町長にも伝えさせていただく。

【教育長】

本件は地域全体に関わるテーマであり、現在、地域全体で真剣に議論されていることに敬意を表したい。地域の学校であるため、全ての意見が100%一致することは難しいかもしれないが、関係者の意向を尊重しながら、町としても考えていきたい。

地域の中にはさまざまな意見があり、厳しい声も含めて多くの意見が寄せられている。軋轢を生むことなく、十分に議論を尽くした上で、その結果を尊重していきたいという立場である。

また、特認校制度についても要望の声があるため、双方の合意が得られれば速やかに動けるよう、準備や段取りを進めている。その辺りは理解しながら今後も進めていきたいので、引き続きよろしく願いしたい。

【町長】

誤解してほしくないが、町としては教育委員会という組織があるため、現時点で町長が先行して結論を示す状況ではないと考えている。ただ、さまざまな状況については私も聞いており、教育長とも話している。地域としても、意見が100%一致することは難しいが、一定の合意形成は必要である。その合意を無視して町側が一方向的に進める考えはない。一

方で、上美生地区の将来、子どもたちの将来のためにどのような選択が望ましいかについて、全てを地域に丸投げするという意味ではなく、教育委員会と地域が互いに折り合い点を探りながら進めている作業中であり、負担感が大きいことも理解している。

時間は限られているが、検討期間はまだ残っているため、教育委員会、地域、そして最終的には町と、さまざまな観点から検討を重ね、どこかの段階で結論を出さなければならないと考えている。

また、特認校については、他自治体で新たに開始・継続する例も報道されているが、現実的に児童生徒が継続的に確保できる状況かどうかといった点も含め、見極めが必要である。一方で、地域にとって学校の存在が大きいことも事実である。したがって、これらをどうバランスよく判断し、決断するかが重要なポイントである。

私としてももう少し先の時期になれば、より真剣に考え、地域の意見も引き続き伺っていききたい。現段階ではここまでの説明として理解してほしい。

【参加者】

地域特認校という話もしていただいているが、現実問題として、芽室町に限らず日本全体で子どもの数が減少しており、特認校等で一定程度集められればよいが、将来見通しも含めて考えなければならない。山村部の小規模な小学校・中学校は、十分に「強み」になると考える。瓜幕のバカロレアのように従来の枠組みにとらわれない、全く新しい教育プログラムとして打ち出す必要がある。例えば英語教育に特化し、教員体制も含めて英語中心にするなど、発想を転換した取り組みが必要である。私自身、学校は残してほしいが、一方で、今後さらに児童生徒数が減り、極端に少人数になる状況を想定すると、そのままでは教育環境としても望ましくない懸念もある。だが、取り組みとして、きちんと人を集めるということをしてもらいたい。先ほどから地域の協力と言われているが、箱根駅伝で原監督が選手の主体性に任せるということは管理責任者の放棄だと言っていた。地域の学校でもあり同時に芽室町の財産でもある。だからこそ、最初から「減るから縮小・

統合」という判断に寄せるのではなく、まずはできる限りのチャレンジ、挑戦をするべきだと考える。やるだけやって、結果としてうまくいかなかった場合に再検討するのであれば理解できるが、当初から縮小ありきで進めるべきではない。

芽室町内だけで人を確保できないのであれば、全道・全国規模で「こういう教育に取り組む」と発信し、受け入れる器を用意する方向で取り組むべきである。以上、意見であり、回答は求めない。

【参加者】

質問ではないが、教育委員会が開催した意見交換会に出席した立場として、町長に意見を伝えたい。

意見交換会に出席して「合意形成」とは具体的に何を指すのか、どのような状態を合意形成というのかが非常に分かりにくいと感じた。昨年、PTAとしてまず保護者同士で話し合い「学校を残していきたい」という意見が一定程度共有された経過がある。地域の人間としても、この地域にとって学校は大切な問題であると受け止めてきた。しかし意見交換会では「少数の意見がある」「声なき声がある」といった趣旨の話が出ると、PTAで時間をかけて話し合ってきたことは一体何だったのかという気持ちになった。もちろん不要であると考え保護者の意見を否定するものではなく、それも一つの意見として尊重すべきである。ただし大きい学校に行きたいというニーズがあるのであれば、どうすればそれが実現できるのかを考えることが重要であり、それが直ちに「地域に学校はいらない」という結論につながるものではないと思った。

また、まちづくりの観点から見ると、芽室のまちなかと農村地域では状況が大きく異なり、学校の意味合いも異なる。まちなかで生まれ育ち、まちなかの学校に愛着を持つ人がいる一方で、農村地域にあるこの学校だからこそ選び、ここに来た家庭もいるはずである。それをなくしてしまった場合、まちづくりとしてどうなのかという点を強く危惧している。

人口減少は農村地域に限らず、日本全体の大きな課題であるが、影響はまず農村地域から先に現れ、その後都市部の問題として顕在化していく面もあ

と思う。その中で、この地域で暮らす住民としては、地域が賑わい、生活に満足しながら暮らしていけることが重要であり、その前提として学校の重要性を強く感じている。PTA 会長が老友会の例会やサロン等で意見を聞いたところ、子どもがいないため教育内容等について大きな要望を言いにくいという声はあっても、多くの人が学校の必要性自体は感じていると聞いている。年末の町内や地域の集まりでも同様に話し合いが行われたようであり、こうした経過も踏まえ、芽室町全体のこととして考えてもらいたい。

最後に、先ほどの軋轢の話にも通じるが「こういう意見もあるから」という示し方が、意見交換会の場で逆に軋轢を生み、発言しづらさにつながるのではないかと心配している。

【町長】

誤解してほしくないが、私自身、統合や廃校ありきで話をしているわけではない。ただ、地域として今後をどう考えるかという点については、先ほども述べたとおり、100%一致ではなくてもよいが、一定の合意は必要であると考えている。意見を聞けば多様な意見が出てまとまらないという見方もあるが、もう少し話し合いを重ねることは必要だと思う。現時点で町として「この方向で行く」という方針を決めているわけではない。

また、特認校についても、将来像を描けるようなストーリーが伴わなければ、進め方としてリスクがあると感じている。もし町も教育委員会も協力し、地域とともに人を呼び込むためのアイデアを考えていくという取り組みであれば理解できる。管理者であるからといって、町だけで提案や方向性をすべて考え、進めていくものでもない率直に考えている。

現時点で私の立場はフラットである。統合や廃校を前提に考えているわけではないが、一方で特認校等により必ず残すという考えを固めているわけでもない。今後、教育委員会とさらに協議し、地域との関わり方や意見聴取の進め方も含めて、しっかり検討していきたい。

繰り返しになるが、現時点ではフラットな立場である。これは逃げではなく、今後も引き続き真剣に、さまざまな意見を踏まえて進めていきたいという趣旨である。いただいた意見は理解しており、心に留めておく。

【参加者】

私は教育委員会との話し合いにも参加した。そこで改めて感じたのは、この地域の小学校には「山村留学」の仕組みがあり、町外から子どもを受け入れられる制度が整っている点である。これは非常に優れた仕組みであり、大きな魅力だと考えている。しかし、町としてその魅力を十分に価値として捉えていないのではないかと、という疑問がある。この仕組みを生かして町に人を呼び込み、人口を増やすことも可能ではないかと思う。実際の上美生に移住者が増えているという事実もあると認識しており、町としてこの点をどのように見ているのか。私自身はもともこの地域の出身ではないが、この仕組みを見たときに、地域の方々がどれほど学校を残したいと考えてきたのか、その思いが形になった仕組みだと感じた。これまで学校を守ってきた先の世代の思いが、今の世代にも受け継がれ、「残したい」という思いにつながっているのだと理解している。

PTA が方針を一方向的に押し通すつもりはないと思うが、地域にはPTAの役員等を含むさまざまな立場の人がおり、考え方にも幅がある。私自身はPTAの準会員という立場であるが、PTAとして「学校を残したい」という方向で進めるのであれば、応援したいと思っている。

一方で、地域の意見を100%一致させることは、どのテーマでも非常に難しいと考える。例えば他の政策・事業でも、町民の100%の合意を得ることは通常難しい。もちろん幅広い賛成を得ることは重要であるが、100%に限りなく近い合意を常に求めると、何事も進めにくくなるのではないかと。民主主義の考え方としては、一定の多数の賛成で物事を進めるといった判断もあり得る。

地域の方々もPTAの方々も、それぞれ悩みながら検討してきたのだと思う。だからこそ、せつかくあ

る山村留学等の仕組みを、町としても生かし、活用してほしいという意見である。

【町長】

山村留学は大きな手法の一つであり、私自身も担当した経験があることから、その重要性は強く認識している。非常に貴重な取り組みであるという点は同じ考えである。現在も関係者が一生懸命取り組んでいると理解している。一方で、現実として山村留学希望者が今後も継続的に増えていくかという点については、少子化の影響もあり難しい部分があるとしている。ただし、町としてこれまで以上に腰を上げ、山村留学に特化して取り組みを強化するというやり方もあり得ると考えている。

また、地元の子どもたちもいる中で、山村留学の受入とのバランスをどう取っていくかという視点も必要である。山村留学を無視してよい、推進しなくてよいという考えではない。加えて、町内全体で見ても出生数は大きく減少しており、市街地も含め、将来的に統合の議論が出る規模まで児童生徒数が減っているという事実がある。したがって、今後の学校運営は当該地域だけでなく、町内全体として、まちづくりの観点から「学校の存在をどう考えるか」という視点を外さずに検討する必要がある。

その上で、上美生地域においても学校の存在は重要であり、簡単な判断でどうこうする考えはない。だからこそ、100%一致ではなくても、一定の地域との話し合いと合意形成が必要であり、そのために互いに努力していくという考えである。

最終的には、どこかの段階で判断はしなければならぬ。その際には、町として、また教育委員会として、それぞれの考え方を示す必要があるため、そこに至るまで議論を尽くして進めていきたい。地域が大変な苦勞をしていることも理解している。教育委員会だけでなく町も関わりながら検討を進め、最後は責任をもって判断していきたい。

【参加者】

「コンセンサス」が何を指すのかが分かりにくいと感じている。特認校については、地域のコンセン

サスが必要だと言われたため、私がPTA会長のときに、まず地域の方々や地区協議会会長にも意見を伺った。すると「現地の子どもたち、在校児童生徒や保護者の意見を優先し尊重する」という考え方が示されたため、教育委員会にも確認したところ、地域としての総意が得られれば、そこからスタートできるよう準備はできるという説明であった。協議会長からも「制度としては実施可能である」との趣旨の話をしている。準備期間の関係で当年度は難しいとしても、次年度であれば実施できる可能性があるという認識だった。その後、PTA総会で採決を行い、PTAとしては「特認校を進めてほしい」という意見で決を取っているため、これをPTAの総意として扱ってよいと考えている。しかし、その後「さまざまな意見がある」「将来的な見通しを考えると現時点では進められない」といった理由で、進行が止まっている状況である。現PTA会長も各所と折衝し、何度も説明等を行っているところである。

そうなる「コンセンサス」とは一体何を意味するのか分からない。こちらとしては、地域の意見を取りまとめて提出したつもりである。残したいという意見は現にあり、100%一致ではないにせよ、各所から意見を聞いた上で上美生地域としては「存続させたい」という意見が優勢であるという現状認識である。学校を残すために何ができるかも議論しつつ、まずは特認校をやってみる、というのが地域の提案である。特認校だけで全てが解決するとは地域も考えておらず、私自身も同様である。ただ、制度があり、実際に利用したいという需要も一定程度あることを確認している以上、取り得る手段として提案している。にもかかわらず、将来の見通しや少数意見を理由に止まるのであれば、では「どうすれば通るのか」「どうすれば議論が前に進むのか」が分かりにくい。地域として町と喧嘩したいわけではない。町全体として子どもが減っていること、将来的に統合の議論が出る規模であること、効率を考えれば集約が合理的だという考え方があることも理解している。一方で、今残っている資産は、誘致や地域づくりの「武器」になり得るといった意見もある。

結局のところ、最終的には町として、今後の教育

や学校配置をどう考えるのかという方向性が重要であり、地域だけに負担する形で捉えるべきではない。町としての方向性が見えないと、地域としても何をどの水準でまとめれば「合意」と見なされるのか分からない。このまま「100%ではない」「まだまとまっていない」などを理由に「また話し合しましょう」と先送りが続くと、次の教育大綱等の計画を決める時期が来てしまう。そこまでに地域として何をすべきなのか、意見をまとめるにしても「どういうまとめ方が求められているのか」が分からなければ、正直まとめようがない。

現在、PTA 会長が老友会や他の地域も回り、地域のコンセンサス形成に向けて努力していることは理解している。地域として意見を取りまとめて「こういう意見である」と示したとしても、「将来的に児童生徒数が増える可能性がない」と判断されれば通らない話になってしまうのではないかと、という不安がある。町長は「フラットに話を聞く」と言うが、現状は「数の見通しが立たない」という理由で、提案が進まない状況に見える。その場合、地域側としては、何らかの形で「この方法で数を増やす」という見通しや方法まで提示しなければならないのか、それとも「確実に増える計画」が作れる段階に至るまで進められないのか、その判断の考え方が分からない。教育計画は8年間の枠があり、途中で中間的な見直しが入ると理解している。そうであれば、例えば特認校についても、将来的に支障が出る可能性を完全に見通せない部分があるとしても、まず制度として導入し、状況を見ながら検証するという進め方がなぜできないのかが、現時点では理解できていない。実際に、町外から当該校に通いたいという希望があり、人数が2人や3人であったとしても、保護者は負担を承知の上で希望していると聞いている。制度を導入することで教育委員会や町に過度な負担が生じるのであれば検討が必要であり、税金である以上、無駄遣いをしてはならないという点も理解している。しかし「制度としては実施可能である」と説明されている以上、やってみたいというのが率直な気持ちである。結果として2~3人増えたが効果が限定的だった、という結論になる可能性もあるが、

実施しない限り、増加がゼロなのか、3なのか、10なのか分からない状態が続いてしまう。だからこそ、良いにしても悪いにしても、話を前に進めたいという思いが強い。「何をしても話が進まない」状況自体がよくないと考える。仮に「こういう理由で難しい」という判断であれば、それはそれで次の手立てを考える出発点になる。しかし現状は、コンセンサスを集めるよう求められ、集めたつもりでも進まないという状態であり、何が判断基準なのかが分からない。今年の8月という期日が決まっている以上、できればその基準や進め方について、具体的に話を進めていきたい。

【教育長】

先ほどから話しているとおおり、特認校の導入について駄目だと言っているわけではない。導入に向けた準備や段取りは町として進めており、すぐに動けるよう整えている。町として反対している、あるいは町が止めているという理解は誤解である。やってほしいという要望に対して、必要な準備は行ってきた。

ただし、誤解があるとすれば、特認校は学校配置計画の中では特記事項として位置付けられている点である。配置計画は令和9年度から令和16年度までの8年間であり、現状は複式学級になれば統合する、中学校が複式学級にならない限り存続するといった条件設定がある。

とりあえず特認校を始めてみて、希望者が少ないから統合に進むという判断にはしたくない。求めているのは、8年間先を見据え、仮に入学者数が少ない状況であっても、町と地域が連携しながら「何としてもこの学校を残す」という強い意思と、その前提となる一定のコンセンサスが必要であるということである。現在も必要な対応は進めており、町が特認校の導入を一方的に切っている状況ではないので、誤解いただきたくない。やるべきことは、実施できるよう準備しているところである。

【町長】

これまでの経過として、私は文章や会議録等で確

認している程度であり、教育長とは話をしているが、それでも細かな経過については把握していなかった部分もあるので、本日、皆さんから受け取った思いや意見も含めて、内容を整理し、分析したい。その上で、できるだけ早い時期に、8月を待たずに、その前の段階で、こういう思いで考えているということを示せるよう、一定のスケジュール感を持って進めたいと考えている。

皆さんの思いは理解した。少し時間をいただくが、よろしく願いたい。

11時55分終了

